

2013 年度 小委員会活動成果報告

(2014 年 2 月 12 日作成)

小委員会名	西洋建築史小委員会	主 査 名：中島 智章 就任年月：2011 年 4 月
所属本委員会 (所属運営委員会)	建築歴史・意匠委員会	委員長名：杉本 俊多 主 査 名：
設 置 期 間	2013 年 4 月 ～ 2017 年 3 月	
設 置 目 的 各年度活動計画 (箇条書き)	1) 若手研究者の育成・強化策に関する議論・検討・実行（次年度以降継続）。 2) 国際的な研究動向をふまえ、新しい研究活動、研究領域の拡大、隣接研究分野との学際協力の可能性、および日本における西洋建築史研究のありかたに関する議論・研究（次年度以降継続）。 3) 学術的国際交流促進の方法に関する議論・検討、関係する情報の流通・公開の促進を通じた、小委員会としての役割の検討（次年度以降継続）。 4) 『西洋建築史図集』のメンテナンスの一環としての、「デジタルアーカイブ」と「西洋建築史用語集」の作成の必要性と可能性に関する議論・検討・試行（次年度以降継続）。	
委員構成 (委員名 (所属))	委員公募の有無：無し 中島智章(工学院大学)、海老澤模奈人(東京工芸大学)、加嶋章博(摂南大学)、伊藤重剛(熊本大学)、伊藤大介(東海大学)、稲川直樹(中部大学)、大橋竜太(東京家政学院大学)、太記祐一(福岡大学)、西田雅嗣(京都工芸繊維大学)、星和彦(前橋工科大学)、堀賀貴(九州大学)、横手義洋(東京電機大学)	
設置 WG (WG 名：目的)	西洋建築史図集改訂WG： 1) 現行の『西洋建築史図集』（1981 年の三訂版）の問題点の洗い出しと、構成、内容、体裁や出版の形態も含めた『西洋建築史図集』の新しいあり方の検討、及び執筆体制や写真等のデータの取り扱いの検討を行う。西洋建築史研究の枠組みを再検討し、20 世紀後半以降の研究成果も採り入れ、根本的な改訂に着手する。 2) 『西洋建築史用語集』の可能性についても同時に検討を行う。	
2013 年度予算	170,000 円	ホームページ公開の有無：有り 委員会 HP アドレス： http://news-sv.ajj.or.jp/rekishi/s5/

項 目	自己評価
委員会開催数	3 回（年度内計画を含む）
刊行物 (シンポジウム資料等は 除く)	無し
講習会	無し
催し物 (シンポジウム・セミナー等) *能力開発支援事業委員会 承認企画	1. 第 3 回西洋建築史若手研究者研究発表会「ルネサンス期の都市と建築を考える ～理想都市と築城をめぐる～」 参加者数 31 名 資料名：同上
大会研究集会	無し
対外的意見表明・パ ブリックコメント等	無し

<p>目標の達成度 (当初の活動計画と得られた成果との関係)</p>	<p>活動目的(1)(2)について、第3回西洋建築史若手研究者研究発表会(2013年12月21日)を開催し、若手研究者4名の話題提供による公開研究発表会を実施した。また、西洋史の分野の研究者を登壇者としてお迎えし、議論を深める機会を得た。また、ホームページや Facebook ページを通じて、委員の活動報告や海外情報など、情報の公開と共有に務めている。</p>
<p>委員会活動の問題点・課題</p>	<p>1) 予算の関係で、小委員会が通信会議を主とせざるを得なく、実際に顔を合わせての会議が困難であり、活動の継続性の確保が難しい。Eメールによる委員同士の協議が多く、今後ネットによる会議も検討しなければならない。</p> <p>2) シンポジウム、セミナー、研究発表会等を企画する場合、かなり早くからの計画・承認が必要であり、予算の関係で他の催し物等で来日した機を捉えて海外の研究者に講演等をお願いしようとしても、委員会主催や後援とするにはスケジュールが合わないことが多い。ネットワークがあるにも拘らず、外国人研究者の招聘が実現できない等の問題がある。学会が協賛となるイベント開催の手続きを簡略化し、機動的な承認システムが構築されておらず、活動があっても、小委員会の正式な活動として位置づけられず、また、国際的な視野でのイベント企画も困難な状況にある。</p>